

# 第3回 市民まちづくりワークショップ 実施結果 【8月26日、9月26日 実施】

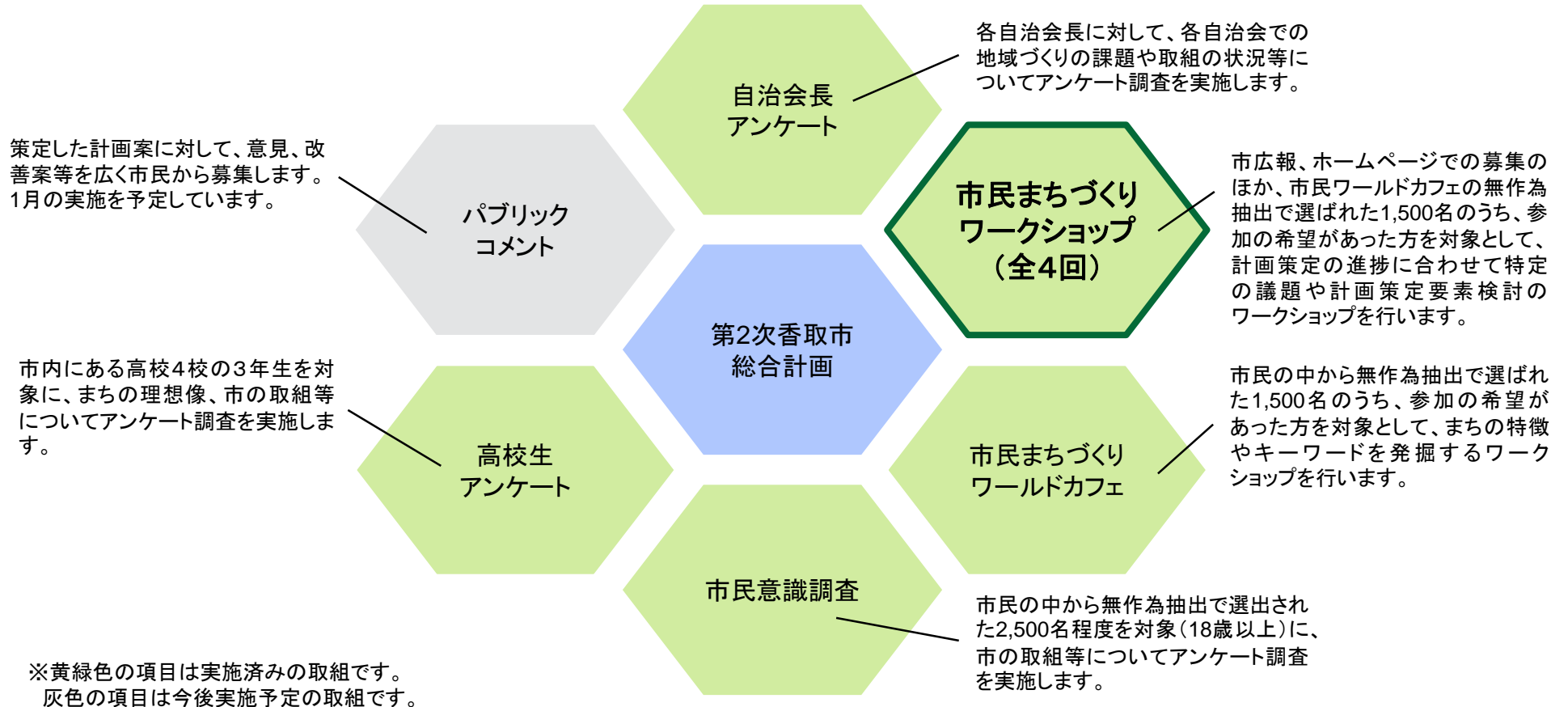
# 目次

市民まちづくりワークショップの位置づけと役割	2
第3回 市民まちづくりワークショップの概要	6
第3回 市民まちづくりワークショップでの検討結果	10
第3回 市民まちづくりワークショップ アンケート結果	25
参考:第3回 市民まちづくりワークショップの様子	32

# 市民まちづくりワークショップ の位置づけと役割

# 計画策定にあたっての市民意見の収集方法

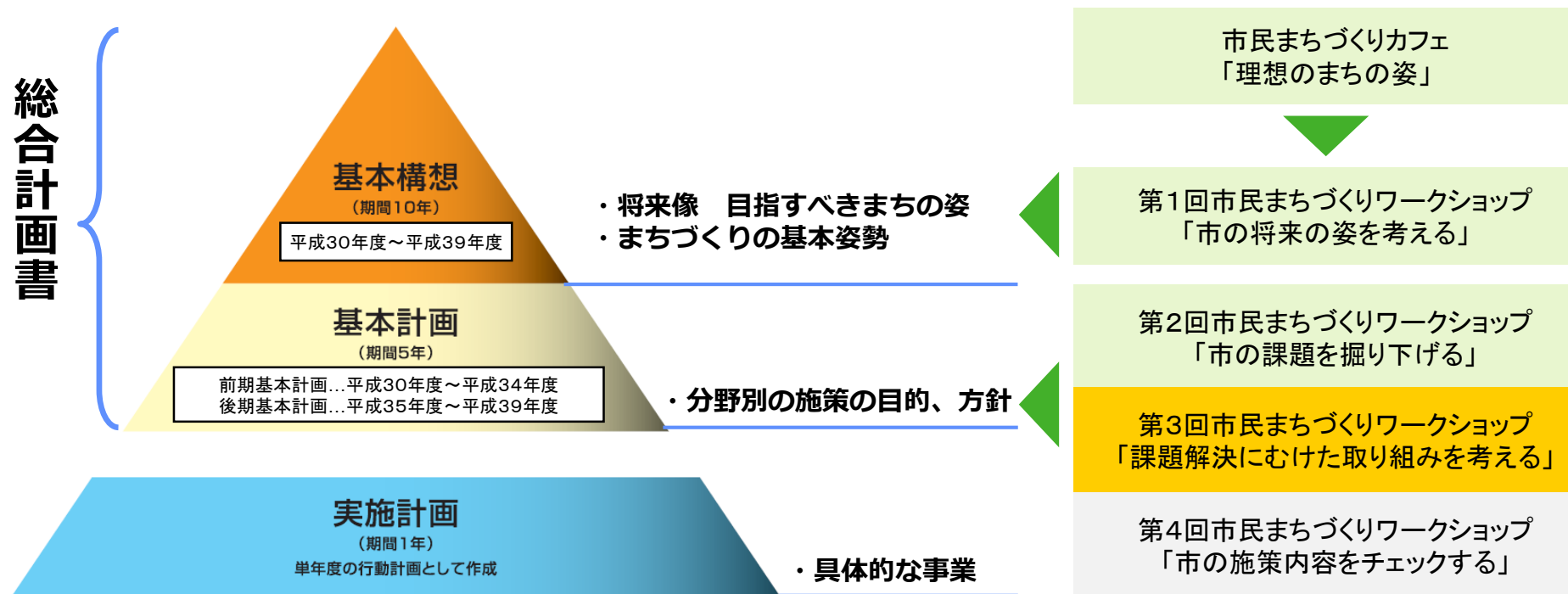
計画の策定にあたり、複数の手段と多様な視点から市民意見を収集しています。



総合計画は市の取組だけで実現できるものではなく、市民、事業者など、香取市に関係するすべての人々が認識を共有し、各々が計画に向けて取組みを進めることで実現されます。そのため総合計画は、多くの人が理解しやすく、共感できる内容でなければなりません。様々な方法による市民参加は、その結果を適切に総合計画へ反映することで、総合計画を市民にとって身近で親近感のわくものへと近づけます。

# ワークショップ意見の計画への反映

全4回のワークショップ毎に、検討内容が異なり、また、検討結果の反映先、反映方法が異なります。

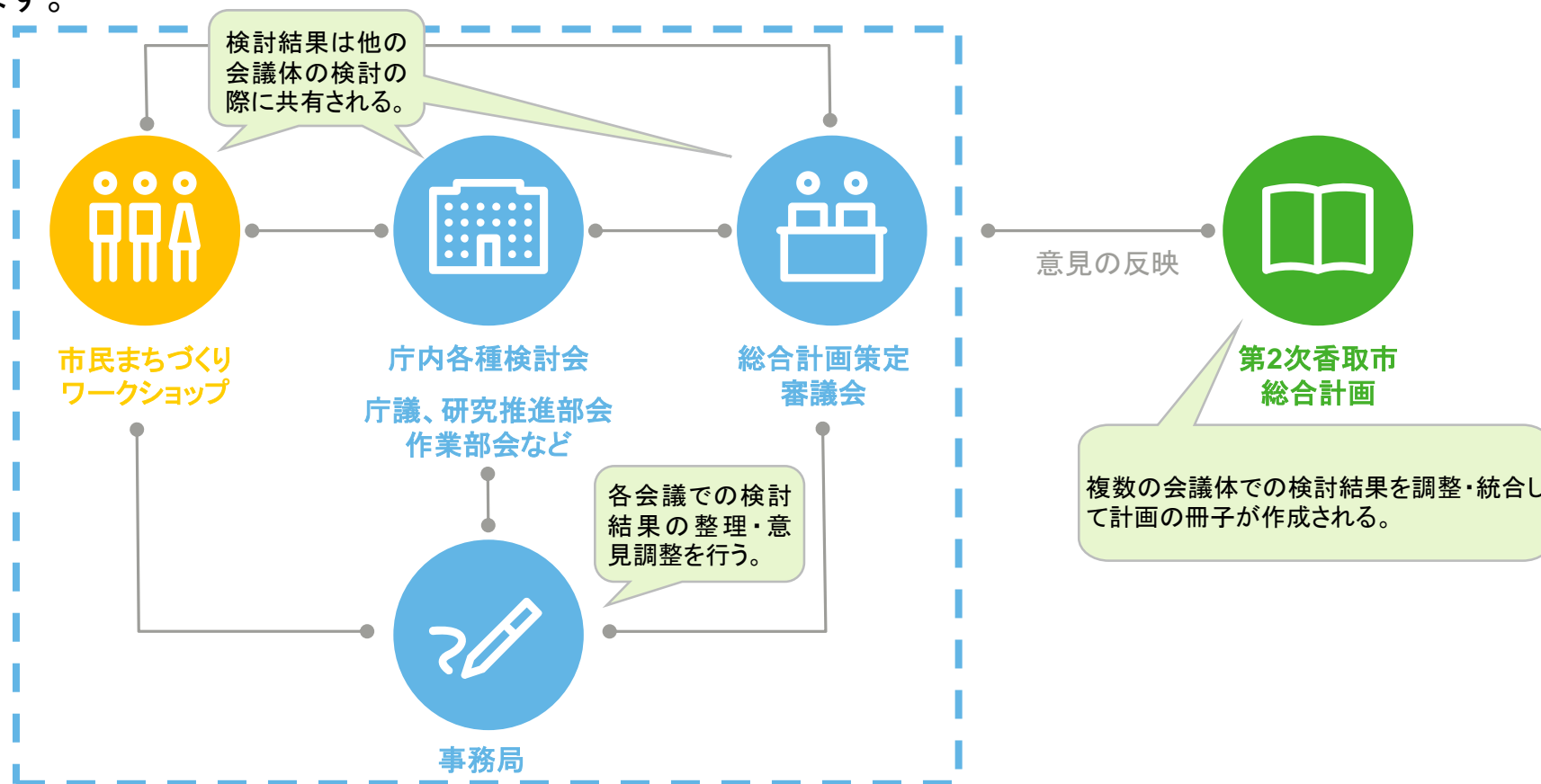


※上記のイラストは検討中の計画イメージであり、検討の過程で変更がある可能性があります。

計画策定の進捗に合わせて、ワークショップでの議題を設定します。それぞれの回の検討結果は、事務局で整理、調整し、参考意見として計画の各項目の策定に用いられます。計画策定の際に市民からの意見や視点を取り入れることによって、行政からの視点にとどまらない幅広い視点で計画を作成します。

# 検討結果と他検討会との関係

ワークショップでの検討結果は、計画策定に関係する他の検討会で活用し、各検討会での議論の参考となります。



ワークショップでの検討結果は、事務局を経由して、市内部での検討や総合計画策定審議会の場に共有されます。総合計画の策定の過程では、同一の項目について複数の会議体のそれぞれ異なった視点を持って議論をします。複数の会議体での議論を経ることによって、単一の視点では見えてこなかった切り口、キーワード、表現方法の検討が可能となります。

# 第3回 市民まちづくりワークショップ の概要

# 第3回 市民まちづくりワークショップ

## 開催概要

- 市民まちづくりワークショップ実施目的

市民主体の議論を通じて総合計画策定にかかる意見を収集する。また、計画策定プロセスへの市民参加によって、市民の地域課題に対する当事者意識の啓発につなげる。総合計画作成において行政の立場のみならず複数の立場から計画内容を検討することによって、より広範な視点で計画を作成する。

- 開催期日、開催場所

市民 : 平成29年8月26日(土) 13:00~17:00 香取市役所 4F庁議室

高校生 : 平成29年9月26日(火) 17:00~19:00 香取市役所 4F庁議室

- 参加対象

市民 : 16歳以上の市民の方

高校生 : 市内の高校へ通学する高校生

- 参加者(アンケート回答者)

21名 【年代別内訳】10代:10人、20代:0人、30代:0人、40代:5人、50代:0人、60代:3人、70代以上:3人、無回答:0人

【男女比】 男性:9人 女性:6人 無回答:6人

- ワークショップを通じての目標成果

第2回市民まちづくりワークショップで出た課題に対して、解決の方向性と、解決に向けた各主体が実行可能なアクションを提案する。

- 成果の総合計画での反映予定箇所

「施策の方向性」、「事業の方向性」等への反映を予定している。



## 第3回ワークショップの位置づけ

第2回と第3回の2回にかけて、「課題の発見と解決」をテーマにワークショップを実施しました。

実施日	検討回	検討内容	成果物(活用方法)
5/13	第1回市民まちづくりワークショップ 「市の将来の姿を考える」	市の将来の姿を考える	まちの姿を表すフレーズ
7/23	第2回市民まちづくりワークショップ 「市の課題を掘り下げる」	市の課題を掘り下げる	分野別の課題 課題に対する取組 (施策の方向性、事業の方向性、協働のかたち、など)
8/26 9/26(※)	第3回市民まちづくりワークショップ 「課題解決にむけた取り組みを考える」	課題解決に向けた 取組を考える	
11月 (予定)	第4回市民まちづくりワークショップ 「市の施策内容をチェックする」	市の施策内容を 確認する	

**香取市が抱える課題の発見と解決**  
がテーマ

※10代の若者のまちづくりに対する意見を得るため、授業や行事日程を考慮し、別の日程で高校生を対象としたワークショップを開催しました。

第2回市民まちづくりワークショップでは、参加者が感じる市の課題の抽出を行いました。第3回まちづくりワークショップでは、第2回まちづくりワークショップで抽出した課題を基に、「行政」や「事業者」、「地域・自治会」、「市民」などの主体ごとに課題解決に向けてどういったアクションが必要かを検討しました。第2回、第3回ワークショップで検討した課題と取組は、新計画の事業の方向性、また、市民と行政の協働のかたちを検討する際の参考意見とします。

## 第3回市民まちづくりワークショップの流れと検討方法

第2回市民まちづくりワークショップの結果をもとに、第1ラウンドで課題の深掘りを行い、第2ラウンドで解決の方向性と解決に向けたアクションを検討しました。

	第1ラウンド	第2ラウンド
議題	まちづくり分野ごとの課題を考える	課題の解決方法を考える
時間	約45分	約50分×2回
作業内容	第2回ワークショップで挙げられた各まちづくり分野の課題から、「なぜ、どのように課題なのか」という課題の原因や内容を検討します。 (例:夜は街中が暗い→街灯が少なく、夜道が危険な箇所がある)	第1ラウンドで選択した課題について、解決の方向性を検討します。解決の方向性ごとに「市民」、「地域・自治会」、「団体」、「事業者」、「行政」の各主体が課題の解決に向けて実行すべきアクションを検討します。
成果物	①まちづくり分野ごとの具体的な課題	①課題解決の方向性 ②課題解決に向けた各主体のアクション

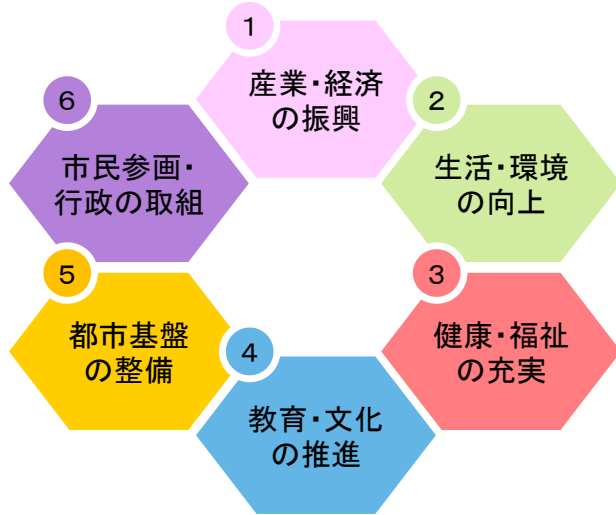
9月26日(火)に実施した高校生を対象としたワークショップは、第1ラウンド約40分、第2ラウンド約50分×1回で実施しました(議題、作業内容、成果物は上記と同様)。

# 第3回 市民まちづくりワークショップ での検討結果

# 検討の結果①(第1ラウンド:第2回ワークショップ結果を踏まえた検討方法と班構成)

班ごとに選択した分野において、第2回ワークショップで挙げられた課題の具体化を行いました。

後期基本計画・施策体系の6分野(まちづくり分野)



【第2回ワークショップ】  
まちづくり分野ごとの課題と  
解決方法のアイデアを検討

第1ラウンド検討資料

第1ラウンド検討内容

検討資料に挙げられていた課題の比較、組み合わせ等を行いながら、「なぜ課題なのか?」、「具体的にはどのような点が課題なのか?」という視点から課題を具体化(深掘り)しました。

## ■ 各班の構成と検討したまちづくり分野

班	構成	分野	班	構成	分野
市民A班	—	1.産業・経済の振興 3.健康・福祉の充実 4.教育・文化の推進	高校生A班	女性3名	1.産業・経済の振興 5.都市基盤の整備
市民B班	—	1.産業・経済の振興 5.都市基盤の整備	高校生B班	女性2名 男性2名	2.生活・環境の向上 3.健康・福祉の充実
市民C班	—	2.生活・環境の向上 6.市民参画・行政の取組	高校生C班	男性3名	4.教育・文化の推進 6.市民参画・行政の取組

## 検討の結果①(第1ラウンド:まちづくり分野ごとの課題を考える①)

第2回ワークショップで挙げられた主な課題を中心に、課題の具体化を行いました。

分野	第2回での主な課題	班	深掘りされた課題
産業・経済の振興	空き店舗、観光客への対応(宿泊場所、施設の充実)、交通の不便、雇用・就職先の少なさ、商店街の活気不足、農業の後継者不足	市民A班	<ul style="list-style-type: none"> <li>人手不足</li> <li>農業の特産品</li> </ul>
		市民B班	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光資源の活用がうまくいっていない、情報共有ができていない</li> <li>農業生産の低下</li> </ul>
		高校生A班	<ul style="list-style-type: none"> <li>商業がもうからない</li> </ul>
生活・環境の向上	公園が少ない、ごみのポイ捨て・不法投棄による景観の悪化	市民C班	<ul style="list-style-type: none"> <li>管理不足</li> <li>魅力がない</li> <li>公園が少ない</li> <li>街灯が少ない地域がある</li> </ul>
		高校生B班	<ul style="list-style-type: none"> <li>道路の環境が悪い</li> <li>ごみを捨てたくなるような場所が多い</li> </ul>
健康・福祉の充実	医療施設の整備(産婦人科がない)、医師不足、高齢者の増加による問題(買い物難民)、障害者雇用・支援	市民A班	<ul style="list-style-type: none"> <li>若者の流出・職場がない(若者が働きたくなる職場がない)</li> <li>ひきこもり・孤立</li> </ul>
		高校生B班	<ul style="list-style-type: none"> <li>交流がない</li> <li>交通の便が悪い</li> </ul>

## 検討の結果①(第1ラウンド:まちづくり分野ごとの課題を考える②)

第2回ワークショップで挙げられた主な課題を中心に、課題の具体化を行いました。

分野	第2回での主な課題	班	深掘りされた課題
教育・文化の推進	学校の老朽化、学校施設の整備、スポーツ施設の不足、自治会等地域組織の縮小・機能不全、文化施設の整備、祭り文化の継承	市民A班	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学の分校を誘致</li> <li>活動の不活発さ</li> </ul>
		高校生C班	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化への関心不足から、文化が廃れ行く</li> </ul>
都市基盤の整備	生活道路等の整備、土地の有効活用、市内交通網の整備、水道管の整備、空き家の活用、観光客・地域住民の交通手段確保	市民B班	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光客と市民のための市内交通手段が(分散している・接続していない)(具体的には市民の空港への公共アクセスやバスターミナル)</li> </ul>
		高校生A班	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通の便が悪い</li> </ul>
市民参画・行政の取組	行政サービスへの理解、窓口対応の改善・効率化、行政に対する市民の関心度の低さ、行政サービスがわかりにくい、情報発信、事業性のある取組の導入	市民C班	<ul style="list-style-type: none"> <li>行政サービスが悪い(使いづらい・わかりづらい)</li> <li>市民の街づくりへの意識が低い市民参画の活性化</li> <li>収入が少ない</li> </ul>
		高校生C班	<ul style="list-style-type: none"> <li>行政の方向性が定まらない</li> </ul>

## 検討の結果②(第2ラウンド:課題解決に向けた各主体のアクションの検討)

第1ラウンドで深堀した課題に対して、各主体が解決に向けて実行すべきアクションを検討しました。

分野	深堀りされた課題	主なアクションプラン
産業・経済の振興	人手不足による農業生産力の低下	行政、事業者による農産品の海外展開、1ターンの若者や女性の就農促進
	観光資源の活用不足	各主体によるSNS、ケーブルテレビを活用した市内外への情報発信
	商業の稼ぐ力の不足	市民や地域・自治体、事業者による地域のPR活動、行政によるPR活動への支援
生活・環境の向上	市内の公園の環境が悪い	行政からの民間委託による、事業者の創意工夫を活かした環境整備
	生活道路の環境が悪い	行政、事業者による道路整備、市民、地域・自治会による要整備箇所の発見、通達
健康・福祉の充実	若者の流出	地域・自治会による若者が働きやすい環境づくり、行政による公共交通の都市部へのアクセスしやすさの向上
	市民の交流が少ない	市民による挨拶、声かけ、行政、団体による地域でのイベントの開催
教育・文化の推進	文化に関する活動の不足	行政、事業者による体験学習の機会の増加
都市基盤の整備	公共交通の接続が悪く、不便	行政による公共交通サービスの新設、市民のパーク&ライドなどの積極的な活用
市民参画・行政の取組	行政サービスの内容が分かり辛い	行政によるインターネットやSNSを活用した情報発信、ワンストップ窓口サービスの実施
	市民の行政への参画が少ない	行政による市民参画の場の増加、市民による積極的な市政情報の収集

各班の検討結果から、共通してあげられている課題を要約抽出し、課題に対しての解決方法を要約の上、記載しています。

## (参考)

## 検討の結果②(第2ラウンド:各分野ごとの検討のプロセス:産業・経済の振興①)

		実行主体:私 ← → 公				
		市民	地域・自治会	団体	事業者	行政
課題	解決の方向性					
市民A班	農業の特産品	婦人・女子たちの社会参加	多古米を魚沼産くらいにPR	商品開発コンテストで売り物を発掘する	商品開発コンテストで売り物を発掘する	行政が6次化を進める(PR)(女性中心-安倍構想)
	人手不足	高齢者の知識・経験で人手不足を補う	農業生産者が売値を決める仕組み(公的化する)			地域農業者とJAの関係を新たに立ち上げる 市長が自由に市民の主張を聞く
市民B班	観光資源の活用不足、情報共有不足	今の情報:SNS	商工会議所がPR動画を作る	FMケーブルTV	宣伝CM	FMケーブルTV設置のための認可をとる
		観光の取り組みの「今」の情報をSNS等で得る	観光推進のための研究会で、顧客の分析をする	コミュニティFMケーブルTVの設置	香取の魅力を使った宣伝やCMをうつ	高齢者向けインターネット、IoT講習会を実施する
		観光プロデューサーを育てる基金をつくる	外から見た観光資源への意見をまとめる		地域のプロデューサーになる	
	農業生産の低下	Iターンで地域に戻ってくる				海外輸出
IターンによるIOT					六次産業化(米)	





(参考)

検討の結果②(第2ラウンド:各分野ごとの検討のプロセス:生活・環境の向上)

		実行主体:私 ←-----> 公				
		市民	地域・自治会	団体	事業者	行政
市民C班	管理不足					民間委託
	魅力がない					事業性のある仕組み、環境を整備して運営
	公園が少ない(大公園)					
	街灯が少ない地域がある					増やす
高校生B班	道路の環境が悪い	道路環境の悪い箇所を行政へ報告する	道路環境の悪い箇所をリサーチする	邪魔な木などの撤去	道路工事を請け負う	工事を依頼する
			箇所を行政へ報告する			カーブミラー、白線、歩道などの設備の増設
	ゴミを捨てたくなるような場所が多い	草刈りをする	捨てたくなる場所をリサーチする	町内で簡単な草刈りを行う	危険な場所の草刈りやゴミ処理を行う	事業者と団体へ依頼する
			箇所を行政へ報告する		処理の難しいごみを処理する	市民への広報活動

ポイント・特徴:公園や道路環境が悪いことが課題として挙げられていることに対し、事業者、行政は工事を行い、市民や地域・自治会は工事すべき箇所を指摘することが解決策として挙げられています。

(参考)

検討の結果②(第2ラウンド:各分野ごとの検討のプロセス:健康・福祉の充実①)

	課題	解決の方向性	実行主体:私 ←————→ 公				
			市民	地域・自治会	団体	事業者	行政
市民A班	若者の流出・職場がない(若者が働きたくなる職場がない)	町おこしによる観光産業の活性化 地域の産業に若者が集える組織を新設(農業パーク等)		産業のイノベーション・現状の職場で働きやすい場所を作る 2極化開発(小野川、香取神宮)で若者向け商売を立ち上げる		若者が町に残る公的PRを繰り返す	通勤用のJRの複線化・バスの本数を増やす 香取市として鹿島・神栖と就職協定がむすべないのか 交通インフラの確保(都会と地元の往来が容易になること) 行政も現場に行って現実に現物を見て判断してほしい
	ひきこもり・孤立	民児協・自治体・地区社協が連携した取組ができていない 防災訓練をするために個人情報が必要 見守ネットワークの言葉が先行して行動に結びついてない	独居者の了解を得て確認方法を決めておく	買い物サービスをしてひきこもりの個人の孤独をいやす			民児協・自治体他実態の縦割り機能を見直す

## (参考)

# 検討の結果②(第2ラウンド:各分野ごとの検討のプロセス:健康・福祉の充実②)

	課題	解決の方向性	実行主体:私 ←-----> 公				
			市民	地域・自治会	団体	事業者	行政
高校生 B班	交流がない	人と直接関わる機会を増やす	積極的にあいさつする	イベントの周知	ボランティア部族の設置 お宅訪問で高齢者の様子を確認する	介護サービスを増やす	イベント、交流の場を増やす
	交通の便が悪い		自分の車に、他者を乗り合いさせる	時刻表などの周知		各戸を回るバスサービスを実施する	バスを手配する

ポイント・特徴:若者の流出や他人との交流の機会の減少が課題として挙げられていることに対し、行政は公共交通サービスの向上、地域・自治会や団体はイベントやボランティアを開催することが解決策として挙げられています。

(参考)

# 検討の結果②(第2ラウンド:各分野ごとの検討のプロセス:教育・文化の推進)

		実行主体: 私 ←—————→ 公					
		市民	地域・自治会	団体	事業者	行政	
市民A班	大学の分校を誘致						
	活動の不活発さ						
高校生C班	文化への関心不足から、文化が廃れ行く	文化への関心を高める	体験学習不足であることを知り、体験学習に参加する	より多くの人に祭りに参加してもらうよう呼びかける	ボランティア等団体の事業について周知する	体験学習を増やす	教育(授業)の中で具体的に地元・地域を取り上げる
					体験学習の講座内容は事業者に一任する方式で依頼する	学校と連携して(授業内での宣伝など)取り組む	

ポイント・特徴:文化に関する活動が活発でないことが課題として挙げられていることに対し、各主体が地域での体験学習に取り組むことが解決策として挙げられています。

(参考)

検討の結果②(第2ラウンド:各分野ごとの検討のプロセス:都市基盤の整備①)

課題	解決の方向性	実行主体:私 ←————→ 公				
		市民	地域・自治会	団体	事業者	行政
観光客と市民のための市内交通手段が分散し、接続していない (具体的には市民の空港へのアクセスや市街地整備、公共交通、道路整備に課題)	市内の交通手段の接続向上(点を線にする)	都市整備のコンセプトを理解する		サイクリングロード関連の地図を整備に合わせて作る	空いている駐車場をイベント時に提供するなどして活動する	交通整理のための用地を提供する(駐車場として)
		コンセプトを理解した上で都市整備の在り方を行政と議論		重要な要望に対しては複数の団体で議論して意見を述べる	外部委託事業を行う	駅北口～利根川のサイクリングロードの接続を改善する
		パーク＆ライド		緊急時の状況把握のためにドローンを活用する		千葉市動物園に子供のための運営参画
		審議員の公募化		交通整理のためのボランティアを行う		子供のための公共交通ルートの開拓(他市との接続)
		市内の周遊観光プロジェクト外を推進する(香取八十八寺巡り)				子供の水遊び場の整備(野田清水公園参考)
					佐原駅北口駐車場にライブカメラを設置、公開する(観光客の利用向上の為)	
					市内公共交通のためのデマンドバスの運行	

市民B班



(参考)

検討の結果②(第2ラウンド:各分野ごとの検討のプロセス:市民参画・行政の取組①)

	課題	解決の方向性	実行主体:私 ←————→ 公					
			市民	地域・自治会	団体	事業者	行政	
市民C班	行政サービスが悪い(使いづらい・わかりづらい)	広報・周知を充実させる					SNSの有効利用(市長も)	
		サービスの効率化					インターネットやIoTの活用	
		縦割り行政の解消					市役所内での情報共有	
							課を横断する相談窓口の設置	
	まちづくりへの参画意識が低い市民の市民参画活性化	市民への啓蒙活動を増やす	市民への呼びかけ					セミナーやワークショップなどの仕掛け
								行政の意識改革
								市民の興味を引く仕掛け作り
	収入が少ない	稼ぐ自治体の仕組みづくり					稼いで税金や賃料を払う	
							市の遊休財産の活用	
						企業誘致		



(参考)

## 検討の結果②(第2ラウンド:各分野ごとの検討のプロセス:市民参画・行政の取組②)

		実行主体:私 ←—————→ 公				
		市民	地域・自治会	団体	事業者	行政
高校生A班	行政の方向性が定まらない	市の行政について興味を持つ	ワークショップの開催		行政に参加すればメリットがあると宣伝する	市民が意思表示できる場を増やす
	市民に意思表示をしてもらおう	行政について知ってもらう			宣伝すればより商売のしやすい環境づくりにもつながる	SNSなどの情報発信を強化する

ポイント・特徴:行政サービスの分かりにくさ、市民参画の少なさが課題として挙げられていることに対し、行政がSNS等を通じて情報発信し、またワークショップなど市民意見を取り入れる場を増やすことが解決策として挙げられています。

# 第3回 まちづくりワークショップ アンケート結果

## アンケート質問項目一覧

アンケートでは、まちづくりワークショップ参加の感想、今後の参加意向を把握しました。

1. 最初に該当する性別及び年代に○をつけてください。(高校生は性別のみ)

2. 本日参加された感想をお聞かせください(該当項目に○をつけてください)。

本日のまちづくりワークショップはお楽しみいただけましたか？

本日のまちづくりワークショップでは、ご自分の意見を十分に発言できましたか？

本日のまちづくりワークショップでの話し合いの時間(長さ)は、いかがでしたか？

今後、市民参画の機会がありましたら、また参加したいと思いますか？

3. 本日のまちづくりワークショップの中で、気づいたことや感じたことがあればお聞かせください。

### 第3回 まちづくりワークショップ・アンケート結果の概要

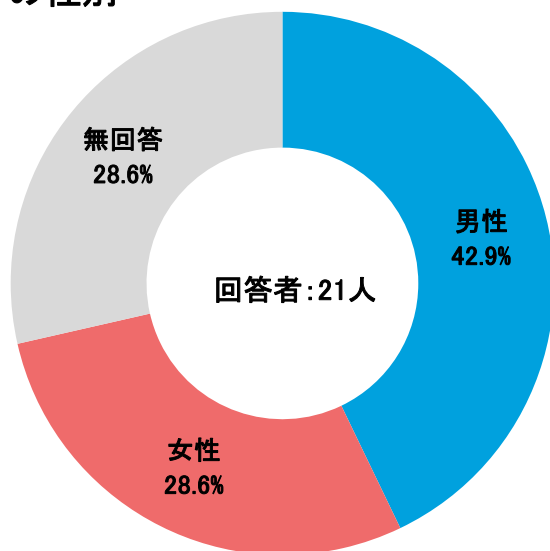
多くの参加者が、まちづくりワークショップで楽しみながら活発に意見を発言でき、今後も市民参画の機会があれば、また参加したいと考えています。

- ✓ まちづくりワークショップの参加者数は22名で、アンケートへの回答者は21名でした。
- ✓ 参加者でアンケートを回答した人のうち90.5%(19人)が、まちづくりワークショップを楽しめたと回答しています。
- ✓ 参加者でアンケートを回答した人のうち95%(20人)が、自分の意見を発言できたと回答しています。
- ✓ 参加者でアンケートを回答した人のうち47.6%(10人)が、話し合いの時間がちょうど良かったと回答しています。
- ✓ 参加者でアンケートを回答した人全員(100%、全21人)が、市民参画の機会があればまた参加したいと回答しています。
- ✓ 自由記述では、対話の重要性についての意見が多く出されたほか、今後の進め方、香取市の今後について、前回のワークショップとの比較についての感想が述べられました。

## 参加者の状況

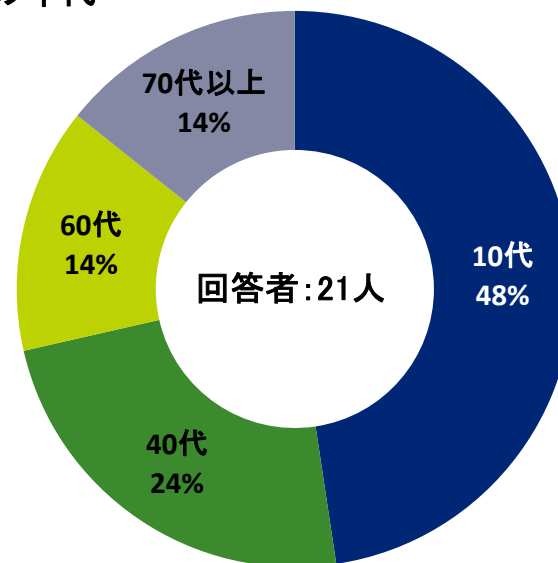
開催日時	市民 : 平成29年8月26日(土) 13:00~17:00 高校生 : 平成29年9月26日(火) 17:00~19:00
アンケート回答者数	21名(市民11名、高校生10名)

参加者の性別



性別	人数
男性	9人(-7)
女性	6人(+0)
無回答	6人
総計	21人(-6)

参加者の年代



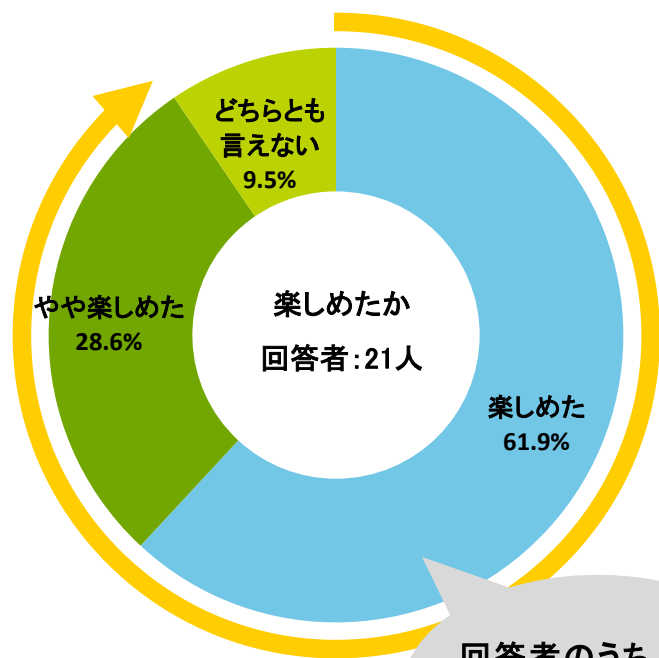
年代	人数	年代	人数
10代	10人(+1)	50代	0人(+0)
20代	0人(-1)	60代	3人(-2)
30代	0人(+0)	70代以上	3人(-3)
40代	5人(+0)	無回答	0人
		総計	21人(-6)

表の()内の数値は前回(第2回)からの数値の増減数です

## まちづくりワークショップの感想

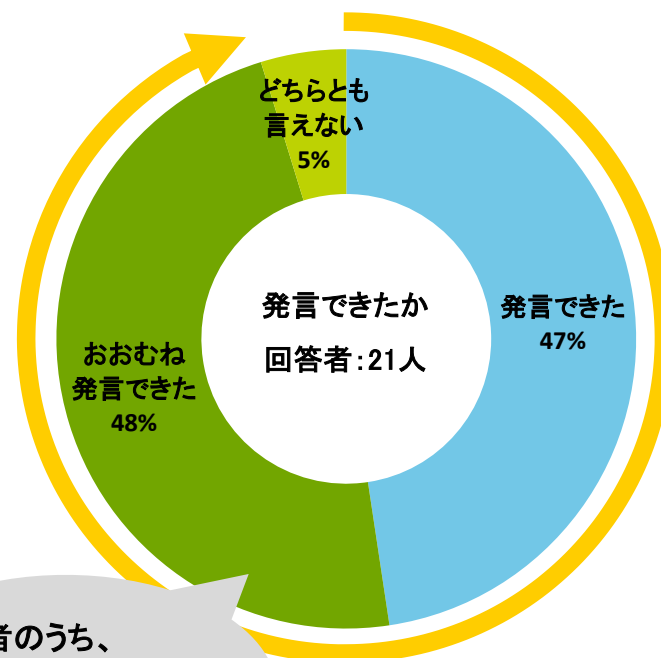
参加者でアンケートを回答した人のうち90.5%(19人)が、まちづくりワークショップを楽しめたと回答しています。また、95%(20人)が、自分の意見を発言できたと回答しています。

2-1\_本日のまちづくりワークショップは  
お楽しみいただけましたか？



回答者のうち、楽しめたと回答した割合は90.5%(+12.8)でした。

2-2\_本日のまちづくりワークショップでは、  
ご自分の意見を十分に発言できましたか？

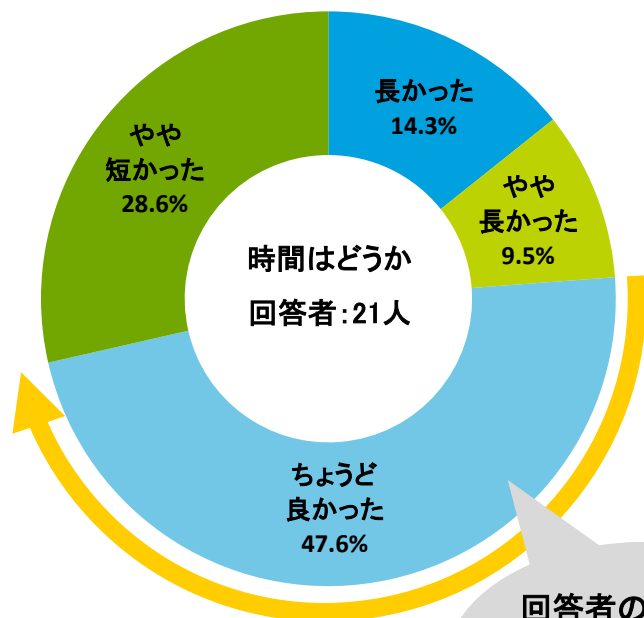


回答者のうち、発言できたと回答した割合は95%(+2.4)でした。

## まちづくりワークショップの感想

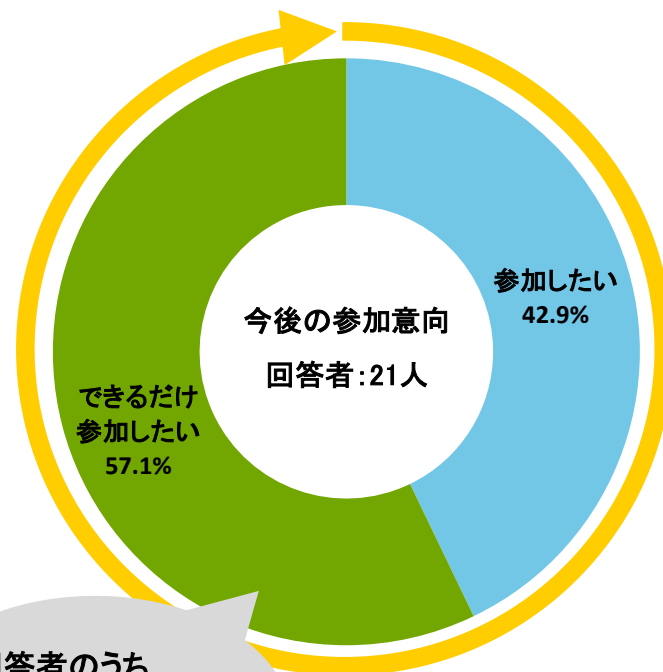
参加者でアンケートを回答した人のうち47.6%(10人)が、まちづくりワークショップでの話し合いの時間がちょうど良かったと回答しています。また、100%(21人)が、また参加したいと回答しています。

2-3\_本日のまちづくりワークショップでの話し合いの時間(長さ)は、いかがでしたか？



回答者のうち、ちょうど良かったと回答した割合は47.6%(+6.9)でした。

2-4\_今後、市民参画の機会がありましたら、また参加したいと思いますか？



回答者のうち、また参加したいと回答した割合は100%(+0)でした。

吹き出しの()内の数値は前回(第2回)からの数値の増減数です。

## まちづくりワークショップ実施に対しての自由記述(主な意見)

今後の進め方についての意見が多く出されたほか、対話の重要性や前回のワークショップとの比較についての感想が述べられました。

3\_本日のまちづくりワークショップの中で、気づいたことや感じたことがあればお聞かせください。

カテゴリー	主な感想
WSの今後の進め方について	ファシリテーターに全てをお願いしすぎてしまった為記録に残らない意見が多かった。
	市役所の様々な課の人にも参加してほしい。
	新たな知り合いができてよかった。
対話の重要性について	やはり時間を費やさないと市民たちの意見も持ち上がらないし、楽しめないと思う。
	市職員との意見交換の場も必要だと感じた。
	「どうして?」「なぜ?」と問題を突き詰めていくと、色々な意見が出ました。自分が考え付かないようなこともたくさんあり、考え方が広がるのを感じました。とても楽しかったです。
市の今後について	具体的な意見を発言するためにも、もっと香取市について知らなくてはいけないと思われました。
	また、香取市のことだけではなく、他の市(活気のある市)がどのような政策をしているのか、敵を知ること大切だと思われました。
	フレーズが決まったのであれば、広告用にデザインしたチラシを常時町内の集会所に貼ってください。意思統一の重要な手段です。
前回との比較について	PRのモデルを芸能人ではなく高校生などにするなど、身近なものに変えればお金はあまりかからないなど少し現実的なことに気がきました。
	若者に向けての政策は若者が考えるなど、同年代の人が考えた方が現実味や可能性が上がると思います。
前回との比較について	今回の話し合いでは、前回以来のメンバーでお互いのバックグラウンドがわかったので、自由な意見交換ができ、有意義であった。

	回答数	割合	記入なしを除いた割合
今後の進め方について	4 (-6)	19.0%	22.2%
対話の重要性について	10 (+2)	47.6%	55.6%
市の今後について	2 (+2)	9.5%	11.1%
前回との比較について	2 (+0)	9.5%	11.1%
記入なし	3 (-4)	14.3%	—
総計	21 (-6)	100.0%	100.0%

表の()内の数値は前回(第2回)からの数値の増減数です

アンケートの回答結果から、参加者が十分に自らの意見を発言し、ワークショップを楽しむことができた実感する一方で、グループで出た意見を整理、議論をより深めるための検討時間が足りなかったと感じています。次回ワークショップ開催時には、十分な検討時間を確保することに加え、グループでの議論の進め方、意見の整理法について補助を行い、より活発な議論の展開を目指します。



**参考：第3回まちづくりワークショップの様子**

## まちづくりワークショップ 各テーブルの様子(9月26日(火)高校生実施分)



各テーブルで、検討分野を分担し議論を進める



第2回ワークショップ結果を参考に、課題を深掘りする

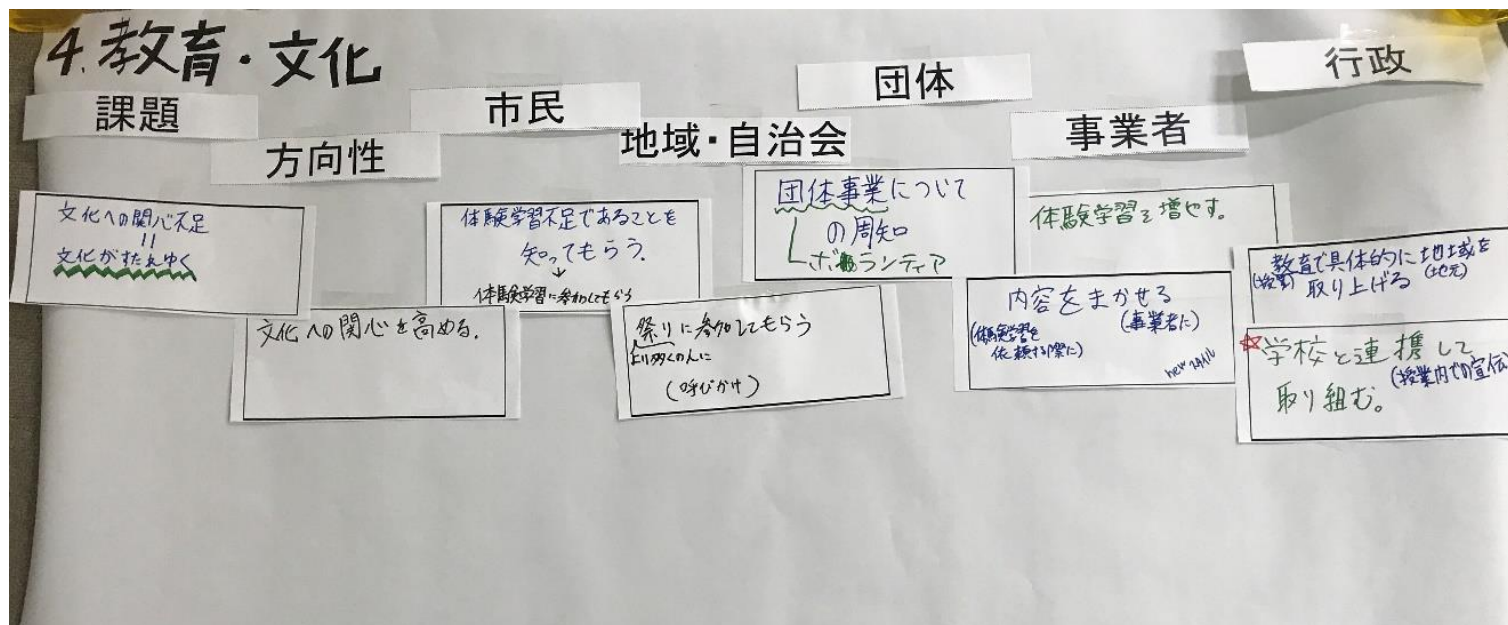


現行の施策体系を参考に分野ごとの課題を考え、  
課題の解決方法を検討



課題解決の方向性と各主体が実行すべきアクションにつ  
いて付箋に書き出し、模造紙に貼りつけることで整理

# まちづくりワークショップ 成果物の一例(9月26日(火)高校生実施分)



第1ラウンドで深掘りした課題を模造紙の左端に置き、次いで課題解決の方向性を並べました。課題解決の方向性に従って、左から「市民」、「地域・自治会」、「団体」、「事業者」、「行政」と、個人から公共の順に各主体を並べ、それぞれが実行すべきアクションを検討しました。